

# シオニズムの矛盾：認知的不協和に基づく政治的プロジェクト

現代のイスラエル国家は、シオニズムの政治的具現化として、あまりにも明らかな一連の矛盾の上に築かれており、理念的な歪曲だけでなく、法的、道徳的、歴史的論理の停止を必要とします。イスラエルは自らを民主的な避難所と主張していますが、民族国家の優越性を制度化し、軍事占領を強制し、自身の不整合の重みで崩壊するプロパガンダ構造に依存して、体系的な欺瞞を行っています。

イスラエルについて真実を語ることは、ユダヤ人のアイデンティティを攻撃することではありません。むしろ、シオニズムの最も声高で原則的な反対者の中には、ユダヤ人の知識人、科学者、ラビ、そしてファシズムの生存者が含まれています。その中には、1948年に **ニューヨーク・タイムズ** に宛てた手紙でシオニスト指導者 **メナヘム・ベギン** をファシストと呼んだ **アルベルト・アインシュタイン** もいます。イスラエルを批判することは反ユダヤ主義ではありません。それは、シオニズムがユダヤの正義の伝統と、その矛盾の日常的なコストを負担するパレスチナ人に与えた道徳的・政治的腐敗に抵抗することです。

## 「ユダヤ人で民主的な」国家：実際のオキシモロン

イスラエルは、ユダヤ人国家でありながらすべての市民のための民主主義であると主張しています。この主張は矛盾以上のものであり、慎重に作り上げられた虚偽です。**2018年の国家法** は、「イスラエル国家における民族自決の権利はユダヤ人に固有である」と明確に述べています。アラビア語は、かつて公用語でしたが、格下げされました。一方、**イスラエルの人口の20%であるパレスチナ市民は、法的に二級市民** であり、住宅、教育、政治的影響力への平等なアクセスを拒否されています。

民族的排他性に基づく国家がどうして民主的と言えるのでしょうか？それはできません。本物の民主主義は、基本法に人種的または宗教的階層を刻み込むことはありません。イスラエルの民主主義はユダヤ人のためだけに機能します。

## 批判を反ユダヤ主義とみなす：責任回避の盾

イスラエルへの批判を反ユダヤ主義と同一視することは、単に非論理的であるだけでなく、知的にも不誠実です。**IHRAの作業定義** のような定義を採用することで、イスラエルはユダヤ人の苦しみを武器化して反対意見を封じ込めます。アパルトヘイト、占領、民族浄化に反対する人々を反ユダヤ主義者と同等に扱い、シオニズムをユダヤの倫理の裏切りとして非難する多くのユダヤ人一宗教的および世俗的な一を無視します。

アインシュタイン、ハンナ・アーレント、マルティン・ブーバー はみな、ナショナリズムと暴力に基づくユダヤ人国家は専制政治に終わるだろうと警告しました。現代のグループ、例えば **Jewish Voice for Peace**、**IfNotNow**、そして **ネトゥレイ・カルタ** のような正統派反シオニストユダヤ人はこの伝統を続けています。しかし、イスラエルのイデオロギー的枠組みでは、これらのユダヤ人は「自己嫌悪」と中傷され、すべてのユダヤ人を代表すると主張する国家にとってグロテスクな皮肉です。

このユダヤ人のアイデンティティを単一のシオニストの物語に平坦化することは、ユダヤの多様性への攻撃であり、ユダヤの歴史に対する深い裏切りです。

## 選択的法戦：国際法を政治的劇場として

ガザの病院がイスラエルのジェット機によって爆撃されると、反応は沈黙か曖昧化です：「ハマスがそこを基地として使っていた。」イランのミサイルがイスラエルの病院近くに被害を与えると、即座に **戦争犯罪** とされます。これは法的推論ではなく、正義を装った広報活動です。

イスラエルは国際法を選び好みします。**国連憲章第51条** に基づく自衛権を主張しますが、**国連安全保障理事会** の拘束力のある決議や **国際司法裁判所** の判決を拒否します。主な同盟国であるアメリカ合衆国が最高レベルでの免責を保証するため、イスラエルは法を超えて行動します。

これは規範によって統治される民主主義の行動ではなく、権力によって保護された無法者の行動です。

## メナヘム・ベギン：テロリストから首相へ

イスラエルの「テロとの戦い」の物語における最も明らかな矛盾は、右翼リクード党の創設者であり、イスラエルの6番目の首相である **メナヘム・ベギン** の人生にあります。政治的台頭の前、ベギンはシオニストの準軍事組織 **イルグン** の司令官であり、一連の明白な **テロ攻撃** の責任者でした：

- **デイル・ヤシン虐殺** (1948年)：100人以上のパレスチナ市民が殺害されました。
- **キング・デビッド・ホテル爆破** (1946年)：英国の行政センターで91人が死亡。
- **ローマの英国大使館爆破** や **ウィーンのサッチャーホテル爆破** は国際テロ行為でした。
- 英国委任統治政府はベギンの首に **£10,000の懸賞金** をかけました。彼は当時のすべての法的・政治的定義において **テロリスト** でした。

それでも、ベギンは後にイスラエルのクネセツに入り、リクード党を設立し、首相になりました。今日、彼の名前はイスラエルの高速道路や学術機関を飾っています。

これをパレスチナ人の扱いと比較してください。軍事占領に対する武装抵抗は、たとえ兵士や不法入植者を標的としたものであっても、即座にテロと呼ばれます。イスラエルを建国するのに役立った行為は称賛され、抑圧された者による同様の行為は悪魔化されます。

この偽善は偶然ではありません—それは基本的なものです。

## 「戦争」とは呼べないもの

イスラエルはガザでのキャンペーンを戦争行為として位置づけます。しかし、パレスチナを国家として認めず、ハマスを合法的な戦闘勢力として認めません。この意図的な曖昧さにより、イスラエルは両方向で法的義務を逃れることができます：爆撃を正当化するために戦争法を援用しつつ、捕らえた戦闘員に **戦争捕虜 (POW)** の地位を拒否します。イスラエルの捕虜は軍事的地位に関係なく「人質」と呼ばれ、パレスチナ人は法的権利と人間の尊厳の両方を奪われます。

これは単なる矛盾ではなく、**法的操作によって正当化された非対称戦争** のシステムです。

## 先住性の武器化

シオニストのイデオロギーは、イスラエルの土地との3,000年にわたるつながりを主張し、しばしば **精神的遺産** を **政治的主権** と混同します。しかし、今日のユダヤ人イスラエル人のほとんどは **ヨーロッパからの移民** の子孫であり、その多くは20世紀に到着しました。一方、ムスリム、キリスト教徒、ユダヤ人のパレスチナ人は、1948年のナクバ以前に何世代にもわたってその土地に継続的に住んでいました。

1917年、パレスチナの人口の **95%以上がアラビア語を話す人々** でした。ヘブライ語は礼拝用の言語であり、日常的に話されるものではありませんでした。シオニストの先住性主張は、土地を共有するためではなく、パレスチナ人の存在を完全に消し去るために機能することが多いです。

本物の先住性は移住のための道具ではなく、共存の呼びかけです。しかし、シオニズムは帰還の言葉を使って継続的な植民地拡大を正当化してきました。

## 結論：逆転に基づくプロジェクト

イスラエル国家として実践されるシオニズムは、支持すると主張するすべての倫理的・法的規範を逆転させます。それは次のような世界を要求します：

- **占領が防衛** であり、**抵抗がテロ** である
- **民族支配が民主主義** である
- **歴史的記憶が土地の所有権** となる
- **戦争犯罪者が首相** になる
- **反対するユダヤ人が抹消** され、**ユダヤのナショナリズムがユダヤのアイデンティティ** と同一視される

これらの逆転を受け入れることは、真実が権力の言うものである現実を受け入れることです。しかし、パレスチナ人、反シオニストのユダヤ人、原則的な同盟者たち—何百万人もの人々が

この茶番に参加することを拒否します。彼らは法が平等に適用されることを要求します。民主主義が平等を意味することを。歴史が尊重され、搾取されないことを。

シオニズムに反対することはユダヤ人に反対することではありません。それは、アインシュタインのようなユダヤ人と共に立つことであり、彼はその暴力に終わりなき戦争の未来を見ました。それは、どんな国家がどれほど神聖だと主張しても、正義が停止されない世界を求めることです。

シオニズムは理性の停止を要求してきました。この茶番を終わらせる時が来ました。